



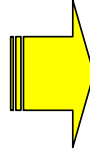
(実験開始から557日経過)

9月7日観察記録にて区画（セメント系）において、「新たな草（カラスビシャク）が生えてきました。」と報告しましたが、この草はヌスビトハギ（いわゆるくつつき草）のようです。

2011/9/7 撮影



2011/10/3 撮影



区画（芝・テフシート）において、新たな草が生えてきました。

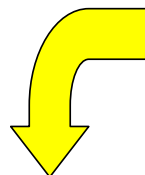
区画 においては、現状では3か所ほど草が生えた後枯れた箇所があります。 **枯れた箇所** : **今回生えた箇所**
 この現象については、「**アレロパシー（他感作用）**」が影響していると考えられます。アレロパシーとはギリシャ語の[allelō]（お互いの）と[pathy]（感じる）から合成された用語で、植物から放出される天然化学物質である**アレロケミカル（他感物質）**が、他の生物に、**阻害、促進、あるいはその他のなんらかの影響を及ぼす現象**です。動くことができない植物はこのようなアレロケミカルによって他の生物から身を守ったり、相互にコミュニケーションしていると考えられており、二次代謝物質として知られる植物に特有の成分の存在意義がアレロパシーではないかといわれています。



今回新たに生えてきた草について、注意して観測していきます。



【参考】
 区画 における
 この1年の状況



参考：(独)農業環境技術研究所ホームページ
 テフシート製品カタログ及びNETIS登録ページ